

小学校算数A (主として「知識」に関する問題)

平成27年度
全国学力・学習状況調査

問題の趣旨

算数に関する学習内容のうち、これからの学習や生活をする上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力について調べる問題です。四則計算、角度の測定、図形の性質、グラフの読み取りなどの問題の他、図をもとにして式をつくる力を調べる問題が出題されています。

全体の正答率

* 平均正答率とは、ひとりひとりの児童生徒の正答率(全設問のうち何%の設問に正答したか)を平均したものです。

平均正答率は全国と比較して
1.2%下回っています

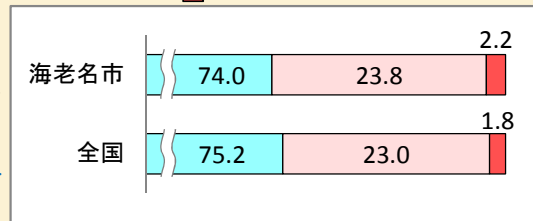
《平均正答率(%)》

	海老名市	神奈川県	全国	全国との比較
算数A	74.0	74.0	75.2	-1.2

誤答の様子は…

《誤答の内訳(%)》

■ 正答 □ 誤答(書いたが不正解だった)
■ 無解答(何も書かなかった)



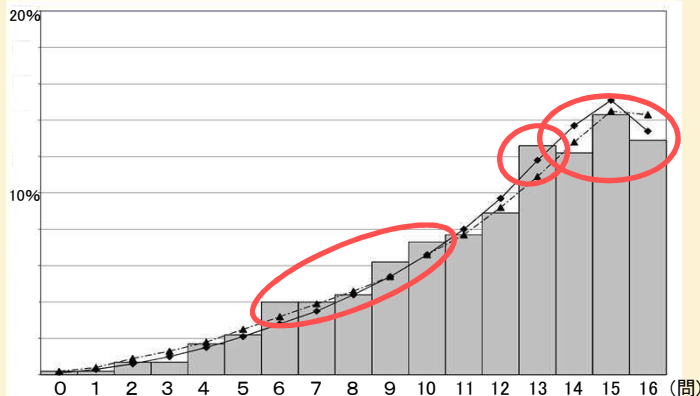
無解答率(何も書かなかった)は2.2%でした。



分布の様子は…

《正答数による分布》

■ 海老名市 --▲-- 神奈川県 ◆ 全国



全国と比較すると
正答数が6~10問、13問の児童
が多く
14問以上の児童が少ない
ことがわかります

* 正答率50%以下(0~8問)の児童の割合は
17.8%でした。(全国は16.3%)

* 正答率80%以上(13~16問)の児童の割合は
51.9%でした。(全国は54.0%)

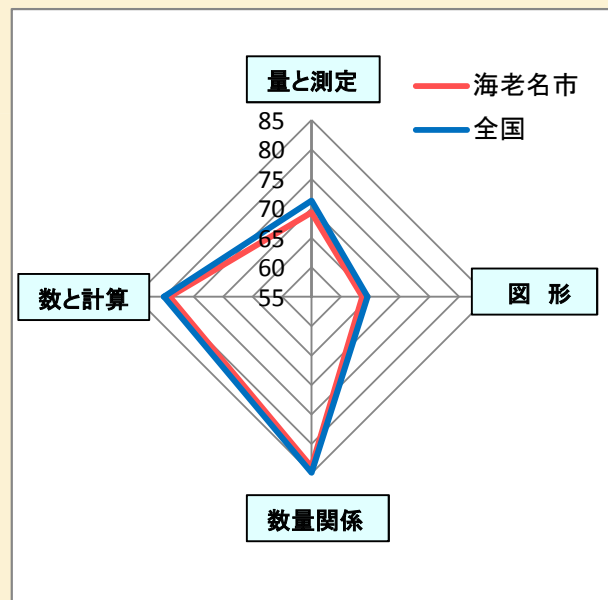
領域別の正答率

全領域において全国と比較して
やや下回っています

	海老名市	全国	全国との比較
数と計算	79.1	80.1	-1.0
量と測定	69.3	71.3	-2.0
図形	63.6	64.5	-0.9
数量関係	83.9	84.9	-1.0

* 「量と測定」については、2.0%下回っていました。

* その他の3つの領域については、約1.0%下回っていました。



内容について

* ()内は、平均正答率の全国との比較

全国を上回った設問

- $6.3 + 0.22 = 6.52$ を確かめるとき、何から何を引くか答える。(+3.3)
- 円の半径を使って三角形をかいたとき二等辺三角形になる理由を選ぶ。(+2.4)
- 分数の引き算をする。($5/9 - 1/4$) (+0.9)

全国を下回った設問

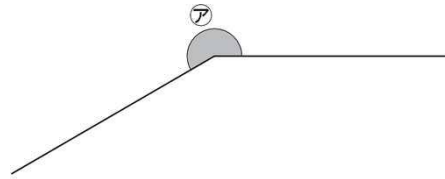
- 180度以上の角の図を見て、およその大きさを選ぶ。(-4.3)
- 小数の引き算をする。($6.79 - 0.8$) (-4.2)
- 円の半径を使ってかいた三角形の角の大きさを求める。(-3.3)

算数Aで平均正答率が全国を下回った設問の例

角の大きさについて、正しいものを選ぶ設問 (全国との比較-4.3%)

アの角の大きさについて、正しいものを下の1から4までのの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 90° 未満である。
- 2 90° 以上で、 180° 未満である。
- 3 180° 以上で、 270° 未満である。
- 4 270° 以上で、 360° 未満である。



正答 3

☆算数Aのすべての設問は、国立教育政策研究所のホームページで見ることができます。

考察

- ◆ 全国と比べて、正答数が14問以上の児童が少なく、6～10問、13問の児童が多いことから、基礎的な力の確実な定着を図る必要がある。
- ◆ 小数の計算や図形の角の大きさについての設問においては、平均正答率が全国を大きく上回った設問と下回った設問があり、計算のきまりや図形の性質の意味を十分に理解するための指導の工夫が求められる。

平成26年度との比較

	海老名市	神奈川県	全国	全国との比較
平成26年度	76.4	76.9	78.1	-1.7
平成27年度	74.0	74.0	75.2	-1.2

- ◆ 昨年度と比べて、平均正答率の差が小さくなっている。
- ◆ 昨年度と同様に、基礎的な力の定着に課題が見られる。

指導の改善にむけて

- ◆ 「知識・理解の確実な定着」のために
 - 算数的活動を取り入れ、きまりや性質の意味を十分に理解できるよう指導する。
 - これまでに学習した内容を定期的に復習しながら指導する。
 - 日常生活に即した課題に取り組み、活用することによって、より深い知識・理解の定着を図る。